

担当者	受付番号	課題名	承認日(西暦)	研究の概要200字以内(ですます調の平易な文章で)	備考
平岡 浩子	E2344	職場における特定保健指導の複数年度評価 ー改善効果維持の状況検証・予測因子について	2014年11月27日	本研究では2008年度より開始された内臓脂肪の蓄積等に着目した特定健診・特定保健指導について、職場における6か月間の特定保健指導を終了した者の1年後、2年後の改善効果維持の状況検証および予測因子の探索を目的として、職場における特定保健指導の複数年度評価を行い、複数年度評価のエビデンス構築の一役を担うとともに今後の保健指導技術研鑽の一助となりうることを目指します。	
赤田 早紀	E2375	糖尿病予備群のための予防プログラムの有効性の検証:ランダム化比較試験	2014年11月17日	健診にて指摘された糖尿病予備群かつ肥満の者を対象として、eラーニングを用いた予防介入プログラム「糖尿病予備群のためのダイエットアプリ」を使用する群と使用しない群にランダムに振り分けて3ヶ月後の体重変化量を比較します。 また、このような比較的人的資源を必要としない支援方法が、どのような背景をもつ対象者の生活改善に有効であるか、あるいは十分でないかについて、行動科学・行動経済学的にも検討を行います。	・特定非営利活動法人EBH推進協議会 倫理委員会 承認済(2014年10月1日) ・UMIN-CTR試験ID:000015860(登録日2014年12月8日)
岸田 瑠加	E2303	歯科治療前に行う静脈路確保時の言葉がけと疼痛の関連:ランダム化比較試験(パイロット研究)	2014年10月2日	患者の関心を疼痛に向けることは、患者の感じる疼痛の原因となります。そのため、静脈路確保時に静脈路確保者が疼痛を暗示する言葉を口にしなければ、患者が感じる疼痛を有意に減少させる可能性があります。本研究では、歯科治療前の患者を対象に、言葉がけと静脈路確保時の疼痛の関係を明らかにすることを目的としています。	大阪歯科大学附属病院
藤本 修平	1113	リハビリテーションに対して患者が感じている“疑問”の特徴	2014年8月20日	リハビリテーションの臨床現場において、患者との共有した意思決定を行えていない現状があります。本研究では、リハビリテーションにおける患者と理学療法士の協働的な意思決定の促進に向けて、疑問調査用紙、インタビューから得られた結果から作成した質問紙調査によってリハビリテーションに対して患者の抱く疑問の特徴を内容分析によって明らかにし、抽出した疑問を踏まえた患者の疑問一覧、家族の疑問一覧を作成しています。	東京湾岸リハビリテーション病院
岡田 浩	E2189	保険薬局薬剤師による高血圧患者への生活習慣改善支援に関する研究	2014年7月29日	薬局をクラスターとするRCT。定期的に薬局で降圧薬を受け取っている高血圧患者に対し、薬剤師が健康的な生活習慣についての情報提供、参加者は歩数計と血圧計を貸与され3か月間測定を行うことによる血圧改善効果を検討します。	
岡田 浩	E2190	保険薬局薬剤師による糖尿病患者への療養支援に関する研究	2014年7月29日	薬局をクラスターとするRCT。定期的に薬局で糖尿病薬を受け取っている経口薬で治療している血糖コントロール不良な糖尿病患者を対象として、血糖自己測定器を貸与し、薬局薬剤師が指導することによるHbA1c改善効果を検討します。	
萬代 真理恵	E2248	乳幼児を育児中の女性の孤独感に関連する要因:その情報源と社会とのつながりによる検討	2014年7月24日	育児中の女性の、近年孤立化した子育てが社会的に問題となっていますが、その一方、情報伝達手段の急速な変化により、ソーシャルネットワークにはさまざまなものがあり、孤独感に関連する社会環境は変化しています。孤独感を持つ育児中の女性への効果的な支援を行うため、ソーシャルネットワークの状況や情報探索行動を把握し、それらと孤独感との関連を明らかにします。	
藤本 修平	E2266	理学療法士のEvidence-Based Practiceおよび診療ガイドラインへの意識調査	2014年7月10日	本研究の目的は、理学療法において推奨されている、Evidence-Based Practice(根拠に基づく実践)およびその支援ツールの役割を持つ診療ガイドラインの普及です。特に、診療ガイドラインをより利用可能なものへ改善するために、質問紙調査を用いて、EBPの取り入れ状況および診療ガイドラインの使用状況や使用方法の現状を把握しています。	東京湾岸リハビリテーション病院、千葉県理学療法士会
大寺 祥佑	E1729	心臓リハビリテーション診療の質指標の測定可能性と信頼性の検証	2014年6月25日	心臓リハビリテーションは心疾患患者の生存率や生活の質を改善することが科学的に認められていますが、適応患者に対する紹介率が低く、提供内容の質は不明です。我々は合意形成手法を用い、わが国における虚血性心疾患患者に対する心臓リハビリテーションの質を測るための指標を開発しました。ただしこれらの指標の計測可能性と信頼性については不明です。本研究の目的は、臨床データを用いてこれらを検証することです。	
宮崎 貴久子	C760	進行がん患者に対するステロイド投与の倦怠感とQOLへの影響に関する多施設共同プラセボ対照二重盲検ランダム化臨床試験	2014年6月17日	がん終末期患者ではQOLの改善が医療の目的となります。終末期の不快感である倦怠感の治療に、一部の緩和ケア医はすでに承認済のステロイドを使用しています。しかし、日本で使用可能な投与量でのエビデンスが高い研究はなく、標準治療としては確立されていません。進行がんで倦怠感がある終末期患者に対するステロイド経口投与の倦怠感改善に関する有効性を、多施設共同プラセボ対照二重盲検ランダム化臨床試験で評価します。	京都大学医学部附属病院、淀川キリスト教病院ホスピス、熊本大学医学部附属病院、東邦大学医療センター大橋病院、奈良県立医科大学附属病院、国立病院機構近畿中央胸部疾患センター、市立長浜病院、日本ハブテト病院、星ヶ丘厚生年金病院、京都民医連中央病院、洛和会音羽病院、東海中央病院、高槻赤十字病院、横浜市民病院、鈴木内科医院

担当者	受付番号	課題名	承認日(西暦)	研究の概要200字以内(ですます調の平易な文章で)	備考
佐々木 八十子	E2087	「周産期医療の質と安全の向上のための研究」付属研究 組織・医療スタッフに関する研究	2014年3月28日	「周産期医療の質と安全の向上のための研究」の付属研究として、NICU(新生児集中治療室)に勤務する医師と看護師に対し、組織文化、組織内人間関係、労働意欲、診療スキル、ストレス、勤務時間に関する調査を行い、介入による変化を検討することを目的とする。最終目標として、組織・医療スタッフの変化が早産児の予後改善につながるかどうかを観察研究として行う。平成24年2月より、中山健夫教授は本研究の共同研究者として参加。	平成23年度厚生労働省科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「周産期医療の質と安全の向上のための研究」(H23-医療・指定・008)中央倫理委員会
高橋 順美	E2048	地域住民における心拍変動スペクトル解析:ながはま0次予防コホート事業データを用いて	2014年3月25日	循環器疾患や糖尿病性神経障害等の病態解明に向けて心拍変動スペクトル解析が注目されていますが、健常者における心拍変動スペクトル関連指標の基準値は未確立です。本研究はながはま0次予防コホート事業(承認番号:第G278号)の第2期調査参加者の安静時1分長心電図を用いて心拍変動スペクトル解析を実施し年齢階級別にHF・LF両成分について調べ、各種生理学的指標・血液生化学指標・生活習慣との関連の横断的検討を行います。	
高橋 由光	E2081	医師を対象にした医療情報の番号制度導入への問題意識調査	2014年2月10日	2013年にマイナンバー関連法案が可決され、医療等分野においても番号制度の導入が検討されています。医療健康情報の一元化は様々なメリットがありますが、重要なステークホルダーである医師の意識はわかっていません。本研究では、医療等IDの導入に対して抱えている医師の意識とともに、その意識に関連する医師の特徴を調べ、今後の医療等ID導入への問題把握・解決策検討のための基礎資料とすることを目的としています。	
大浦 智子	E1933	脳卒中患者を対象としたModified Barthel Indexの信頼性と妥当性に関する検証研究	2014年1月15日	日常生活活動(ADL)の10項目の能力を測定するBarthel Index(BI)をもとに、Shahらは感度を向上させたModified BIを開発しています。ADL遂行度を測定するMBI(PET-MBI)日本語版は、主に高齢者を対象に信頼性と妥当性が検証されてきましたが、対象者数が少ないことや、BIとの併存的妥当性が検討されていないなどの課題がありました。本研究の目的は、脳卒中患者を対象に、MBIの信頼性(ビデオ法)と、MBIとBIの併存的妥当性(直接法)を検討することです。	星城大学 (関西医科大学、旭化成ファーマ株式会社)
中山 健夫	E1253	がん情報不足感に関するインターネット調査	2014年1月14日	がん患者の方々を含む一般市民の方を対象に、必要ながん関連情報の充実に向けて、がんに関するどんな情報が必要か、その情報は足りているか・不足しているかなど、インターネット調査を実施しました。 http://www.qlife.jp/cancer/category/anguish/paucity2013 (平成22-25年度第三次対がん総合戦略研究事業「『患者の体験』情報のデータベース構築とその活用・影響に関する研究』の一環として行いました)	
高橋 由光	E1893	保険者レセプトデータを用いた患者の重複受診行動の実態調査	2013年10月10日	同一疾病で複数の医療機関に受診する「重複受診」は、医療費増加に影響し社会的問題となっています。100万人規模のレセプトデータベース(連結不可能匿名化)を用いて、「重複受診」の発生割合および、重複受診の要因解明を行う。ネットワーク分析を併用することで、重複受診の予防および医療費削減のための政策提言を行うことを目指しています。	
富成 伸次郎	E1854	未破裂脳動脈瘤の破裂の危険性の予測モデル作成	2013年10月2日	日本における未破裂脳動脈瘤患者の3つのコホート(UCAS・SUAVE・慈恵医大のコホート)の匿名化された既存データを統合して利用し、患者背景や動脈瘤の位置・大きさなどの予測因子から将来の動脈瘤破裂の危険性を予測する統計学的なモデルを作成します。さらに、作成したモデルの妥当性の検証を起こつたうえで、モデルを提示します。	
高橋 順美	E1495-1	地域住民における心拍変動スペクトル解析の疫学的検討:ながはま0次予防コホート事業のベースラインデータを用いて	2012年10月24日	所属研究室にて研究室所属者の協力のもとに心電図データを採集し、いくつかのデータ長で心拍変動スペクトル解析を行い、データ長による心拍変動スペクトル解析への影響について考察します。	
高橋 順美	E1495	地域住民における心拍変動スペクトル解析の疫学的検討:ながはま0次予防コホート事業のベースラインデータを用いて	2012年8月22日	循環器疾患や糖尿病性神経障害等の病態解明に向けて心拍変動スペクトル解析が注目されていますが、健常者における心拍変動スペクトル関連指標の基準値は未確立です。本研究はながはま0次予防コホート事業(承認番号:第G278号)のベースライン調査参加者の安静時10秒長心電図を用いて心拍変動スペクトル解析を実施しHF成分について調べ、各種生理学的指標・血液生化学指標・生活習慣との関連の横断的検討を行います。	

担当者	受付番号	課題名	承認日(西暦)	研究の概要200字以内(ですます調の平易な文章で)	備考
上田 佳世	E994	エビデンスの系統的レビューと総意形成手法による院内助産における医療のQuality Indicator開発:妊娠後期から退院まで	2012年6月29日	低リスク出産は出産の多くを占めます。日本では出産へのニーズの多様化や分娩施設の減少、人的資源の不足という課題のある中で周産期医療体制を維持するため、院内助産システムが提案されました。しかし、ケアの質を改善するための医療の質の基準や客観的な評価指標はありません。医療の質の確保や改善を目的として、対象に治療やケアが適切に行われているかを評価する、医療の質指標(Quality Indicator: QI)が注目されています。QIは、「ある治療やケアを受けることが適切な患者の人数」を分母、「受けることが望ましい治療やケアを実際に受けた人数」を分子として、分数の形で表されます。本研究の目的は、院内助産の低リスク出産に関するQIを開発することです。	
高橋 由光	E1476	健康・医療に関するインターネット・携帯電話の利用状況の調査	2012年6月2日	2006年10月～2008年3月に行った、同課題名「健康・医療に関するインターネット・携帯電話の利用状況の調査」(E320)で取得したデータを継続して利用するための申請です。E320では、健康・医療目的のインターネットの普及や影響を検討するための基礎的データを収集しました。	
宮崎 貴久子	956	進行性大腸がん患者を対象とした化学療法中の療養・環境・生活の質調査	2012年5月23日	大腸がんによるわが国での死亡は増加していますが、一方で分子標的薬などを含む多くの治療法が開発され、切除不能進行がんの場合でも生存期間は長くなっています。しかし、化学療法中の患者の視点による有害事象の受け取り方や生活の質(QOL)についての調査は見当たりません。化学療法中の大腸がん患者を対象として、インタビューとQOL調査のミクストメソッドを用いて、生活の質の現状を探索し、支援の課題を明らかにします。	国立病院機構四国がんセンター 日本バプテスト病院
金谷 久美子	E1158	戸外活動時間を考慮に入れた、土壌性ダスト(黄砂)による呼吸器/アレルギー疾患リスクの定量的評価	2011年6月20(2014年9月8日変更・追加申請承認)	喘息やアレルギーの患者数は世界的に増加傾向です。我が国においても、小児喘息の有症割合は増え続けています。また、発症の低年齢化や、通常成長に伴って思春期頃から寛解・治癒するいわゆるグローアアウトの割合も低下しているのではないかと疑われていますが、これらの原因は明らかになっていません。本調査では、大気環境を中心に、近年の喘息やアレルギー増加の原因を探っています。	富山大学・鳥取大学・エコチル調査コアセンター
中山 健夫	G278	ながはま0次予防コホート事業	2008年8月13日(2014年8月25日変更・追加申請承認)	滋賀県長浜市と協力して進めている疫学研究です。 1万82名の市民の方々にご参加頂き、生活習慣の詳しい調査、各種の検査、ゲノム解析を含む血液検査などを通して、さまざまな病気のリスク因子を解明し、新しい予防医学に役立てることを目指しています。 (ゲノム医学センター、臨床系の教室との共同研究です)	